

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来Sopra			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	12名
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	研修の機会が多くある	研修案内を職員が普段から目にする場所に掲示していたり研修内容によって、上司から対象者へ促しが行われている。また、職員が研修を受講できるようスケジュール調整も行われるので、参加しやすい環境である。	職員1人ひとりが知識・技能を深めたいという向上心が持てる職場作りを行っていく。
2	個別支援計画に沿った支援の実施及び情報共有、活動プログラムの立案等に職員が広く関わりチームで進めることができている	意見を出し合ったり、情報共有や支援の確認を行う全職員参加の職員会議を開催している。決まった日程はありますが、参加人数に応じて柔軟に対応している。また、意見を出し合える機会が毎月設けられているため、ため込まずに解決していくことができている。	本年度取り入れた取り組みなので、継続して実施してけるように配慮していく。
3	保護者様や利用児童との関係性が良好である	関わる人も含めて「アットホームな環境」を大切にしている。その為、職員同士の風通しもよく、情報共有もスムーズに行われている。意見の言いやすさやプログラムの立案等にも職員が広く関わっていることから、保護者様やお子様にもスムーズに返答することができていることも良好な関係性を築けていることに繋がっていると考えられる。	職員1人ひとりが心身ともに健康で、支援者として高い意識を持ち、知識・技能の向上に努めていけるよう、マネジメントを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会がなく、保護者同士やきょうだい児同士の関りの場が少ない	関わり場としては夏祭りがあるが、他に顔を合わせる行事がない。大人数が集まって何かを行える場所の確保が難しい。	家族同士、顔の見える関係を築ける場を提供していけるように、保護者向け研修会の開催やきょうだい児の集まりなどの取り組みを検討する必要がある。1事業所だけでは難しい所もあるため、Yくまグループとして3事業所合同で検討してもよいかもしれない。
2	ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムや家族向け研修会の開催などがあまりできていない	家族支援を行う上での専門知識をもった職員や経験を積んでいる職員が不足している。	専門職の配置や専門家を呼んでの学習会などができるよう、つながりを作っていく必要がある。
3	地域の活動に参加したり、地域の方々と共に何かを行うということができておらず、地域に開かれた事業運営ができているとは言えない	夏祭りなどのイベントへの招待の話はことあるごとに話に上がるが、空間や駐車場の問題、安全の確保等がクリアできずに立ち消えしてしまう。	地域の公民館をお借りしてのイベント開催や地域の行事に参加させていただくことなどを考えている。そのために、自治会長様等と連携できる関係性の構築を目指す。